

## B 個別学習

### B3 思考を深める学習



#### 学習の目標

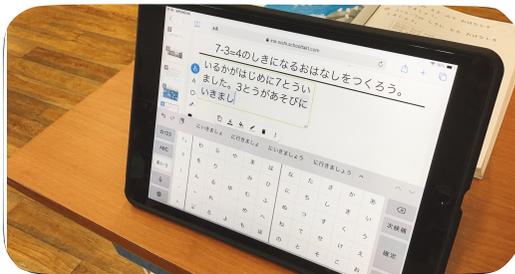
「のこりはいくつ」というひきざんという言葉に着目し、 $7-3=4$ の式になるひきざんのおはなしの問題を作ることができる。



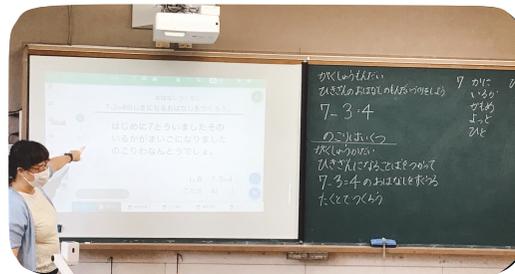
①10までの足し算や引き算の学習を行ってきた児童が「のこりはいくつ」というひきざんという言葉に着目して「おはなし問題」を作ります。先生は、問題作りの例を示しながら児童に指導します。



②児童は、教科書の挿絵から7つのものに着目し、写真を撮りトリミングしてschoolTaktに貼り付けます。ペン機能を使って必要な数を囲みます。このことによって、先生は児童がどの絵に着目したかがわかります。



③この児童は7頭のイルカに着目して「引き算のお話し問題」を作っています。小学校1年生でも文章を書くことができます。活字になることによって友だちに自分の考えをきちんと伝えることができます。



④できた問題をschoolTaktの「共同閲覧」機能によって見せ合いながら発表しました。友だちの作った問題をみんなで声を出して読んだり、発表が終わると拍手をしたりしました。発表する子も拍手する子も満足そうな笑顔でした。

伊那西小学校 1年 矢澤純子 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました

#### 伊那市学力向上検討委員会の先生方と

#### 「ICT活用教育」について考える

伊那市のICT活用教育は機器整備から、授業での有効活用に関する研究に切り変わってきています。

そこで、本年度より「伊那市学力向上検討委員会」の先生方にもご協力をいただき、授業研究を行っていくことになりました。

1回目は伊那西小学校の矢澤先生に授業を提供していただき、学びました。



担任の先生は、4月からiPadを使って授業を行っている。文字入力についても「かな入力」を使って自分の名前を入力してきた。今まで「小学1年生では文字が上手に書けず、自分の考えを伝えるのが難しい」と考えていた。しかし、実際に児童が入力した文を読むと「小学1年生でもこんなことを思っているのだ」と驚いたという。「文字は上手に書けなくても、しっかりした文章は小学1年生から書ける」そう確信したという。児童はschoolTaktの活用には慣れているために、算数だけでなく、国語、生活、道徳など、いろいろな場面で使っている。

算数では、1～10の数について理解をし、足し算や引き算の学習を行っている。算数は答えがはっきりしていたり、具体物を使って問題を解くことが多かったりするのでわかりやすく、「算数は好き」という子が多いようだ。

授業の中では、課題がはやくできた児童にはAIドリル「キュービナ」を使い発展問題に取り組ませ、先生は理解の進まない子に対する支援がスムーズにできている。

参観した先生方からは、さまざまな観点からの意見をいただいた。

・小学校1年生で、写真を撮り、トリミングしてschoolTaktに貼り付けて共有するなど、これほどまでiPadを使いこなしていることに驚いた。  
・iPadを小学校1年生が使えることは学習効果を考えた上でも素晴らしいことである。

この授業はiPadを使わなければ、教科書に直接書き込むか、ノートに写し書きして場面を表現することになる。iPadを使えば、写真に撮り、線で囲んで文章にすることは容易にできる。

さらに、「共同閲覧モード」によってお互いの文章を読めることもよかった。児童の個々の考えを全体の場に提示して学習者全員で認め合えることにICTの有効性を感じた。

・ひらがなによる入力（かな入力）で時間がかかっている部分があり、言葉で表現するだけで学習の目的は達成される。一方、「言葉選び」という観点からは小学校1年生にも大事なことだとも感じた。

・授業の終末部分で、課題がはやくできた児童はAIドリル「キュービナ」に取り組んでいた。個々のペースにあった学習に取り組めてよかった。教科の視点から検討すると、児童が挿絵からの情報を、算数的な見方や考え方を働かせて様々に見出してから問題づくりに取り組むなど「教材の価値」に迫る時間に使うことも大切であると感じた。

学力向上委員会での先生方の意見をもとに推進センターで編集させていただきました